

# 眼内レンズの進歩による先進の「白内障治療」とは？

## 【白内障】とは

水晶体が濁って視力低下を招く病気。最も多い原因は加齢で、80歳以上になるとほぼ100%発症するといわれます。その他、先天性や外傷性、アトピー性皮膚炎や糖尿病等による併発性の白内障もあります。

遠くにも近くにもピントが合う

多焦点眼内レンズで裸眼での生活を実現

白内障の治療はどのようなものがありますか？

治療は目薬や飲み薬などの薬と手術、大きく2つの選択肢があります。ただし、薬はあくまで症状の進行を遅らせるもので、状態そのものを改善させるには手術が必要です。近年は日帰り手術を実施するクリニックも増えてきました。白内障手術では、濁った水晶体を超音波で碎いて取り除き、代わりに専用のレンズを眼内に挿入。眼内レンズには単焦点眼内レンズと多焦点眼内レンズがあります。

2種類のレンズの違いについて教えてください。

単焦点眼内レンズは、遠くか近くのどちらかにしか焦点を合わせられません。そのため、術後でも眼鏡やコンタクトレンズが必要となります。一方、多焦点眼内レンズは遠近両方にピントが合うため、裸眼でもほぼ不自由なく生活できます。ただし、単焦点眼内レンズによる手術が

全額保険適用であるのに対し、多焦点レンズは自費となります。経済的な負担が大きくなります。一定条件を満たすと、一部あるいは全額が補助される制度もあります。

白内障手術を受ける際に、留意すべき点は何ですか？

糖尿病網膜症、緑内障など網膜や視神経に障害がある場合、多焦点眼内レンズをお勧めできないことがあります。その他、眼病を患っている人は、そちらの治療を終えてからの手術となります。また、多焦点眼内レンズは挿入後に近視や乱視が残ったり、視力の再調整が必要となったりするケースがありますので、術後の対応についても医師にしっかりと確認しておくとう良いでしょう。

手術に不安を感じる人も多いのではないのでしょうか？

目の手術と聞くと、やはり怖いというイメージはあるようです。当院では片目ずつ別の日に

実施し、消毒や麻酔の時間も含めて、手術室に入っている時間は1回あたり約20分。術中は多少眼球が引く張られるような感覚はありますが、点眼で麻酔をかけるので痛みは伴いません。何より、術後は自分の目で見える感動で、皆さん怖かったことなどすっかり忘れてしまうそうです。不安があれば事前に医師とクリアにしてから、手術当日を迎えてください。



### 大塚眼科クリニック 大塚 宏之 院長

1989年山梨医科大学医学部卒業後、日本大学大学院修了。松井病院眼科部長を経て、1996年開業。眼科一般はもちろん、多焦点眼内レンズを用いた白内障手術などを得意とする。年に1~2回、海外に出向き、世界の眼科医療のトレンド情報を収集するなど、学ぶ姿勢を忘れない。日本眼科学会眼科専門医。趣味はマラソン。

LINK P000、000

## 「大塚眼科クリニック」で受けられる治療

土曜のみ1日8件限定で精度の高い手術を実現術後の再矯正にも対応

多焦点眼内レンズによる白内障手術は、厚生労働省認定の先進医療施設に限り、術前・術後の診察や検査などにかかる費用に保険が適用。片目につき30万円（同院の場合）の手術費用も、民間の医療保険で先進医療特約に加入していれば、全額が支給されることも。同院では土曜のみ、1日8件に限定し、精度重視の白内障手術を実現している。約4割の患者が多焦点眼内レンズを選択し、視力が0.2から1.0まで回復したという人も多くいます。仮に術後に視力の再調整が必要となった場合は、角膜屈折矯正手術で再矯正が受けられるので安心だ。よりクリアな視界を求める人は、中間点にもピントが合う3焦点レンズ（35万円）も選択可能。



最新レベルの設備が整う手術室